

44. 物をつかもうとするとときに目 - 手の協調運動ができる

＜座位＞

施行：テーブル上に一個ずつ、児の手の届くところに積み木を置く。次の積み木を置く前に、前の積み木を児が取り上げるだけの時間を与える。もし児が1番目や2番目の積み木を取り上げなければ、児の両手に一個ずつ積み木を持たせる。次に3つ目の積み木を見せ、児の行動を観察する。

採点：児が取ろうとしている時に、一つでも積み木に触れることが出来れば採点。

採点上の注意：この項目の実施時に以下の項目も採点する

項目 45 (積み木をつかみ上げる)

項目 53 (2個目の積み木を取ろうとする)

項目 57 (積み木を器用に直接つかみあげる)

項目 58 (3秒間2個の積み木を持っていられる)

項目 65 (3秒間3個の積み木を持っていられる)

シリーズの前項目：42

45. 積み木をつかみあげる。

＜座位＞

施行：テーブル上に一個ずつ、児の手の届くところに積み木を置く。次の積み木を置く前に、前の積み木を児が取り上げるだけの時間を与える。もし児が1番目や2番目の積み木を取り上げなければ、児の両手に一個ずつ積み木を持たせる。次に3つ目の積み木を見せ、児の行動を観察する。

採点：3回の試みのうち、児が一回でも積み木を片手、あるいは両手でつかみ上げることが出来れば採点。体幹に押し当てて持ち上げた物は採点しない。(手のみで持ち上げる)

採点上の注意：この項目の実施時に以下の項目も採点する

項目 53 (2個目の積み木をとろうとする)

項目 57 (積み木を器用に直接つかみ上げる)

項目 58 (3秒間2個の積み木を持っていられる)

項目 65 (3秒間3個の積み木を持っていられる)

運動尺度

項目 31 (積み木をつかむために部分的な拇指対立を用いる)

シリーズの前項目：44

46. ボールが見えなくなった方を2秒間注視する

＜仰臥位＞

施行：児の後方視界外に立つ。児の左方約30度以上の視界が遮断されるようにシールドを保つ。ボールを児の正中線上で児の目から約20 cmのところに持つ。児の注意をボールに引きつけてから、ゆっくりと(1秒に10 cm程度)ボールを児の正中線から右方約30度に動かし、次に左にシールドの後ろに隠れruまで動かす。ボールを約5秒間、シールドの後ろに保つ。(挿し絵参照)これで1トライアルである。もし児が左方のシールドでボールが消え方を見つめなかったならば、2回目のトライアルを右方で行う。

採点：児が少なくとも1トライアルでボールが見えなくなった方を2秒間注視すれば採点。

47. 新しい環境を察知する

施行：児が検査室に連れてこられたときや、部屋の他の場所に連れて行かれたとき等、他の場所に移動した時の児の反応を観察する。

採点：児が驚いたり、目を丸くして周囲を見渡すなど新しい環境に注意を示したならば採点。

48. 紐で遊ぶ

<座位>

施行：輪を持ち、紐を児の正中線上で児の目の前約 20 cm で目と同じ高さに垂らす。児の注意を引き付ける為に輪を少し動かし、静止させる。

もし児が紐に手を伸ばそうとしない場合は、輪をテーブル上で児の手が届かないところに置き、しかし紐は児の手が簡単に届く位置まで伸ばしておく。

採点：児が紐をつまみ上げたり、かんだり、引っ張ったり、手で紐を遊べば採点。

採点上の注意：この項目で項目 62 (紐を引っ張って輪を手に入れる)を採点してもよい。

実施上の注意：もしここで項目 62 を採点できなかったならば、この項目の直後に項目 62 を実施する。

49. 鏡の象にほほえみかける

<座位>

施行：テーブルの上に鏡を置き、鏡が児の約 20cm 前に向くように保つ。検者は、頭が鏡の上からでないように位置し、児が自分の像のみ視るようにする。「赤ちゃんが見える？」などの言葉かけをして、児が鏡を視るようにしむける。

児に反応するだけの時間を与える。

もし児が新しいものに気が散りがちだったら、児を驚かせないようにゆっくりと鏡を児の視界に持つてくる。

採点：児が鏡の自分の像に向かってほほえみかければ採点。

採点上の注意：項目 50(鏡の象にたわむれた反応をする)もこの施行で採点する

シリーズの前項目：41

50. 鏡の像にたわむれた反応をする

<座位>

施行：テーブルの上に鏡の下端を着け、鏡が児の約 20cm 前に向くように保つ。検者は、頭が鏡の上から出ないように位置し、児が自分の像のみ視るようにする。「赤ちゃんが見える？」などの言葉かけをして、児が鏡を視るようにしむける。

児に反応するだけの時間を与える。

もし児が新しいものに気が散りがちだったら、児を驚かせないように、ゆっくりと鏡を児の視界に持つてくる。

採点：児が鏡の自分の像に向かって(声を出して)笑ったり、たたいたり、興味深げに手を伸ばしたり、口をつけたりなどして、たわむれた反応を示せば採点。

シリーズの前項目：49

51. 錠剤を注視する

<座位>

注意：保護者には錠剤が砂糖でできており、児が摂取したとしても害はないことを報告しておく。

施行：児の前のテーブルの上に、児の手が届く範囲に錠剤を置く。錠剤の近くを軽く叩いて児の注意をひく。錠剤の端を軽くはじいて錠剤を揺らし、錠剤が揺れている間に手をひっこめる。

採点：児が錠剤を注視すれば採点。

採点上の注意：この施行で、運動尺度の項目 32(錠剤を手に入れようと試みる)、項目 41(両手を使って錠剤をつまみ上げる)も採点する。

52. ぶつけて音を立てて遊ぶ

＜座位＞

施行：一連の検査を通して、児が意図的に手や物体をテーブルや他の平面に叩きつけるかどうかを観察する。児がこうした行動を見せなかった場合、必要に応じて、スプーンや他の固いものを被検児の手に持たせる。

採点：検査を通じて、児が意図的にたたいて音を出して遊ぶ様子が見られたならば採点。児が偶然に何かを検査台に接触させ音が生じた場合は採点しない。

53.2 個目の積み木を取ろうとする

＜座位＞

施行：テーブル上に一個ずつ、児の手の届くところに積み木を置く。次の積み木を置く前に、前の積み木を児が取り上げるだけの時間を与える。もし児が1番目や2番目の積み木を取り上げなければ、児の両手に一個ずつ積み木を持たせる。次に3つ目の積み木を見せ、児の行動を観察する。

採点：もし児が片方の手に最初の積み木を持っているときに2個目の積み木を取ろうとしたならば、取り上げることが出来なくても採点。

採点上の注意：この項目の実施時に以下の項目も採点する

項目 57 （積み木を器用に直接つかみあげる）

項目 58 （3秒間2個の積み木を持っていられる）

項目 65 （3秒間3個の積み木を持っていられる）

シリーズの前項目：45

54. 手から手へと物を持ちかえる

＜座位＞

施行：検査を通して、児がガラガラや他のもので遊んでいる最中に、片方の手からもう一方の手へと物を持ち替えるかどうかを観察する。

採点：児が片方の手からもう一方の手へと物を持ちかえたならば採点。

児の空いている手が偶然に物体に接触した場合や、一方の手の物体を放し他方の手でそれを拾い上げた場合、持ちかえを行うために口や胴体といった体の他の部分を使うような場合は採点しない。

55. 逆さのカップを持ち上げる

＜座位＞

施行：テーブルの児の手が届く範囲にカップとおもちゃを置き、それらを探索する時間を与える。次にそれらを児から取り上げ、カップの取っ手が児に向くようにカップを逆さにして手早くおもちゃを覆う。児に対し、「(〇〇ちゃん)、おもちゃはどこかな；おもちゃを見つけられるかな。」等の言葉をかける。この項目は最大で2回まで行う。

採点：児が片手、あるいは両手を使ってカップを持ち上げ、最低2秒間持っていられたならば採点。

採点上の注意：この項目で項目 67(取っ手でカップを持ち上げる)も採点する。

56. 落ちたスプーンを探す

＜座位＞

もし床が絨毯敷きであれば、テーブルの下に床に鏡を置き、スプーンを落とした時に音がするようにする。児に最も近いテーブルの縁に、スプーンのくぼみがテーブルの縁の外へ出るように適当な位置で持つ。児がスプーンに注意を向けたら（注意を引くためにテーブルをスプーンで軽く叩いて音を出してもよい）、音がするように床に落とす。

採点：児がスプーンの落ちた床を見て、スプーンを探せば採点。

57. 積み木を器用に直接つかみ上げる

＜座位＞

施行：テーブル上に一個ずつ、児の手の届く位置に積み木を置く。次の積み木を置く前に、前の積み木を児が取り上げるだけの時間を与える。もし児が1番目や2番目の積み木を取り上げなければ、児の両手に一個ずつ積み木を持たせる。次に3つ目の積み木を見せ、児の行動を観察する。

採点：児が、最低一つの積み木を良好な眼―手協調運動でつかめば採点。もし児が、つかむのに何度も(5-6回)試さなくてはならなかったり、何度か落とした場合は採点しない。

採点上の注意：この項目の実施時に以下の項目も採点する

項目 58 (3秒間2個の積み木を持ってられる)

項目 65 (3秒間3個のうちの2個の積み木を持ってられる)

運動尺度

項目 31 (積み木をつかむために部分的な拇指対立を用いる)

項目 37 (積み木をつかむために指先の肉趾を使う)

シリーズの前項目：53

58. 3秒間2個の積み木をもってられる

＜座位＞

施行：テーブル上に一個ずつ、児の手の届くところに積み木を置く。次の積み木を置く前に、前の積み木を児が取り上げるだけの時間を与える。もし児が1番目や2番目の積み木を取り上げなければ、児の両手に一個ずつ積み木を持たせる。次に3つ目の積み木を見せ、児の行動を観察する。

採点：児が最低3秒間、2つの積み木を同時に持っていることができれば採点。もし、児が積み木をテーブルに寝かせたりしている場合は採点しない。

採点上の注意：この項目の実施時に項目 65(3秒間3個のうちの2個の積み木を持ってられる)も採点する。

シリーズの前項目：57

59. 細かい部分に興味をもってベルを扱う

＜座位＞

施行：児の正面でテーブルの数cm上にベルを構える。児がベルを見ている間にやさしく鳴らし、その後被検児の手の届くところにそれを下ろす。

もし児がベルをつかみ上げなければ、再び少し強めにベルを鳴らし、ベルを児に手渡す。児が初めにベルをテーブルに打ち付けることに興味を示したならば、ベルをつかみ上げたら児をテーブルから離す。

採点：児がベルに興味深そうに見つめながら手に取れば採点。例えば、児が打ち金に触れてみたり、打ち金が動いているのをみている間にベルをひっくり返す行動がそれである。

採点上の注意：項目 66 (意図的にベルを鳴らす)もこの項目で採点する。

60. 殴り書きしようと試みる

＜座位＞

施行：児の正面上のテーブルの上に白紙を置く。次に、先を児の反対の方向に向けてクレヨンを紙の上に置く。

もし児がクレヨンで紙に触れようとしなかったならば、クレヨンを手に取り、紙に殴り書きしてみせる。そして児にクレヨンを手渡し、「こんな風にして紙に書いてみてごらん」という風に身振りで表す。

採点：児が検査官が殴り書きしているのを見つめていたり、自分で殴り書きをすれば採点。

61. 3つの母音を発声する

施行：検査を通して、児が自由に発声するいかなる母音にも留意し、記録する。これらは単にうなるような母音の発声とは区別できる、aa, oo, a, ah, uh, ee, eh などのはっきりとした母音である。

採点：3つ以上の母音を発声したならば採点。

シリーズの前項目：22

62. 紐を引っ張って輪を手に入れる

＜座位＞

施行：輪を持ち、紐を児の正中線上で児の目の前約20cmで目と同じ高さに垂らす。児の注意を引き付ける為に輪を少し動かし、静止させる。次に、輪をテーブル上で児の手が届かないところに置き、しかし紐は児の手が簡単に届く位置に伸ばしておく。

採点：児が紐をつまみ上げ、輪を手に入れるために紐を引っ張り輪をつかめば採点。

採点上の注意：この項目で項目 82(紐で輪をつるす)も採点してもよい。

施行上の注意：もしこの項目で項目 82 を採点できなければ、この項目の直後に項目 82 を実施する。

シリーズの前項目：48

63. 発声をまねる

施行：養育者に児が普段どのような発声を行うかを訪ねる。そして、養育者に児が出すのを聞いたことがある音を繰り返してもらい、児が真似して発声するよう促してもらう。

もし養育者がこの項目を実施できなかったならば、gaga, dada, baba 等の語で発声を行うか試みる。

採点：児が一語でも真似をして発声すれば採点。

64. ゲームに参加する

＜座位＞

施行：養育者に、児が日頃から慣れ親しんでいる「いないいないばあ」や「pat-a-cake」などのゲームを児とやってもらう。

もし養育者がこの行為を実施できない場合、検査者が行う。

採点：児が活発にこのゲームに参加すれば採点。たとえば、いないいないばあをするために覆いを見回したり、pat-a-cake で遊ぶのに手を動かせば採点。

65. 3 秒間 2 個の積み木をもっていられる

＜座位＞

施行：テーブル上に一個ずつ、児の手の届くところに積み木を置く。次の積み木を置く前に、前の積み木を児が取り上げるだけの時間を与える。もし児が 1 番目や 2 番目の積み木を取り上げなければ、児の両手に一個ずつ積み木を持たせる。次に 3 つ目の積み木を見せ、児の行動を観察する。

採点：児が 3 つ目の積み木を見せた後も、最低 3 秒間二つの積み木を同時に持っていることができれば採点。(多くの場合、児は 3 つ目の積み木を取ろうとして一つの積み木を落とすので得点できない)もし、児が積み木をテーブルに寝かせたり押しついたり一つを口に入れたりしている場合は採点しない。

採点上の注意：この項目の実施時に項目 75 (3つの積み木を持とうとする)も採点する

シリーズの前項目：58

66. 意図的にベルを鳴らす

＜座位＞

施行：児の正面でテーブル面の約 10 cm 上にベルを構える。児がベルを見ている間にやさしく鳴らし、そ

して児の手の届くところに置く。

もし児がベルを拾い上げなければ、再び少し強めに鳴らした後、児にベルを手渡す。児が初めにテーブルにベルをバンバンと叩きつけることに興味を示したならばベルを拾い上げた時点で児をテーブルから離す。

採点：児がベルの柄を握って意図的に鳴らし、その音を聞いたり振る真似をしたりする様子を見せたならば採点。児がベルを叩きつけている間やいじっている間に、偶然にベルを鳴らしたただけならば採点しない。

シリーズの前項目：59

67. 取っ手でコップを持ち上げる

<座位>

施行：テーブルの児の手が届く範囲にカップとおもちゃを置き、それらを探索する時間を与える。次にそれらを児から取り上げ、カップの取っ手が児に向くようにカップを逆さにして素早くおもちゃを覆う。児に対し、

「○○ちゃん、おもちゃはどこかな、おもちゃを見つけられるかな」などの言葉をかける。この項目は最大で2回まで行う。

採点：児が片手で取っ手を持ち、カップを持ち上げられたならば採点。

シリーズの前項目：55

68. 身振りで要求を伝えようとする

施行：検査を通じて、児が養育者や検査者と対話を行おうとするのに身振りを使うかどうかを観察する。たとえば、児が明らかな対話の手段として物をつかもうとしたり、示したり、押しのけたりするかどうかを観察する。

採点表に児の身振りを記録する。

採点：児が要求を伝えるのに身振りを使えば採点。

69. 本の絵をみる

<座位>

施行：児の正面のテーブルの上に本を置く。始めのページを開き、

「ほら、みてごらん！」

と声をかける。次に児に本を持ったり、ページをめくったり、絵をみたりする機会を与える。

もし児が本を持ってられないことにいらいらしているようであれば、本を支えるのを手伝っても良い。

採点：もし児が一つまたはそれ以上の絵に興味深くまたは認識して見つめれば、興味を持つ時間は短くても採点。児は本全体を見つめるのではなく、ある特定の絵を見つめていなければならない。絵を指し示したり、触ったり、じっと見つめたりするのがそれである。

採点上の注意：この項目の施行で項目 73(本のページをめくる)も採点する。

70. なじみのある2つの言葉を聞き分ける

施行：検査を通じて、児が赤ちゃん、バブちゃん、ママ、しー、等のなじみのある言葉を選択的に聞き分けるかどうかを観察する。

もし児がこの言葉に反応を示さなかったならば、児が興味の無いであろう言葉を使って話しかけ、児の興味を引きつける。そのままの音量と強調度で、おそらくは児にとってなじみのあるであろう言葉をかけ、(児の名前は除く)児の反応を観察する。

採点：児が少なくとも2つのなじみある言葉に対し、表情を変えたり、声を上げたり、言葉をまねたりといった独自に反応すれば採点。

71. 母音と子音の組み合わせを繰り返す

施行：検査を通して、ダダ、ママ、ハハ、ララ、ガガの様な、児が自由に発声するいかなる母音と子音の組み合わせの繰り返しにも留意し、記録する。

もし児がこれらの発声を行わなかったならば、養育者に児がどのような発声を行うかを尋ね、記録する。しかし採点はおこなわない。採点表には児が発した母音の組み合わせの繰り返しを記録する。

採点：もし児が自発的に母音の組み合わせを繰り返せば採点。発声は児にとって意味が無くても良い。また、ダダダのように、2回以上の音の組み合わせの繰り返しも採点する。

シリーズの前項目：61

72. 箱の中身を探す

<座位>

注意：児がビーズを口に入れないようにする。

施行：児がみているあいだに、2個のビーズを箱の中に入れ、軽く振る。次にビーズを取り出し、児の正面のテーブルに置く。直後にビーズを箱の中に戻し、再び箱を振る。次にしばしの間、箱を児のみえないところに持っていき、ビーズを取り出す。

その後、児に空の箱を手渡し、児が箱の中をのぞき込んでビーズを探すかどうかを観察する。この項目は最大2回行う。

採点：児がビーズを探すために空箱の中をのぞき込めば採点。

73. 本のページをめくる

<座位>

施行：児の正面のテーブルの上に本を置く。始めのページを開け、

「ほら、みてごらん！」

と声をかける。次に児に本を持ったり、ページをめくったり、絵をみたりする機会を与える。

もし児が本をうまく支えられないようであれば、手伝っても良い。

採点：児が一度に1ページまたは数ページをめくろうと試みたならば、不器用であったり、完全にページをめくることができなくても採点する。(児が絵本を回したり閉じたり口に持っていったりしているときに)偶然ページがめくれたものは採点しない。

シリーズの前項目：69

74. カップの中に積み木を一個入れる

<座位>

施行：テーブルの児の手が届く範囲にカップを置き、取っ手は自分に向くようにする。1個の積み木をカップの中に入れた後、それを取り出して児に手渡し、積み木からカップへと指をさしながら、

「積み木をカップの中に入れてごらん。カップの中に入れるのよ。」

と言葉をかける。この一連の指示を最大で3回まで行う。

もし児がひとつの積み木をカップの中に入れて手を離れたならば、他の8つの積み木をテーブルの上に

置き、積み木からカップへと指をさしながら、

「積み木をカップの中に入れてごらん。全部入れるのよ。」

と声をかける。この一連の指示も最大3回まで行う。

この時、兄に積み木を手渡してはいけない。もし兄がカップを倒してしまったならば元の位置に戻す。記録用紙に兄がカップに入れた積み木の数を記録する。

採点：兄が最低一個の積み木をカップの中に差し込めば、手を離さなくても採点。

採点上の注意：この項目の施行で項目86(3つの積み木をカップに入れる)と項目94(9つの積み木をカップに入れる)も採点する。

75. 3つの積み木をもとうとする

＜座位＞

施行：テーブル上に一個ずつ、兄の手の届くところに積み木を置く。次の積み木を置く前に、前の積み木を兄が取り上げるだけの時間を与える。もし兄が1番目や2番目の積み木を取り上げなければ、兄の両手に一個ずつ積み木を持たせる。次に3つ目の積み木を見せ、兄の行動を観察する。

採点：もし兄が最初の2つの積み木を手を持ちながら3つ目の積み木をはいたり、口を使ったり、より効果的な努力により取ろうとすれば、成功しなくても採点する。

76. 表現的におしゃべりする

施行：検査を通じて、兄が、必ずしも意味がある必要はないが、表現的で、なにかしら会話の反応をまねているような発声による反応(ピッチやトーンの変化)を行うかどうかを観察する。

採点：兄が最低一つの反応や表現を含む発声を行えば採点。また、兄が最低1語の明瞭な言葉を話せば採点。

シリーズの前項目：71

77. 車を押す

＜座位＞

施行：兄の視野を横切るようにテーブルの上で車をゆっくりと押す。次に兄に向かって車を押す。もし兄が自発的に車を押さなかったならば、
「○○ちゃん、車を押してごらん。ほら、私がやったようにするのよ。」
と声をかける。この項目は最大3回施行する。

採点：兄が車の4輪すべてがテーブルに着いているようにして、意図的に車を押せば採点。意図的に押す以外の方法で車を動かした場合は採点しない。

78. 4つ以上の母音と子音の組み合わせを発声する

施行：検査を通して、ダ、マ、バ、グ、ガの様な、兄が発するいかなるはっきりした母音と子音の組み合わせにも留意し、記録する。

もし兄がこれらの発声を行わなかった場合、養育者に兄普段兄が発する音を引き出すよう手伝ってもらう。もしそれでも発声しなかった場合、養育者に普段兄が発する言葉を尋ね、記録する。しかし採点は与えない。

採点：兄が4つ以上の母音と子音の組み合わせを発声すれば採点。

シリーズの前項目：76

79. ペグボードの穴を指でいじる

＜座位＞

施行：児の正面のテーブルの上にペグボードを置く。ペグボードの最初の一穴、そして次の穴にへと指を入れて穴を指さしながら、
「ほら！ごらん！」と言う。

児の手や指をどちらの方向にも誘導してはいけない。もし児がペグボードを持ち上げようとした場合、どちらかの角を持って止めておく。(最初から押さえておく)

採点：児が少なくともひとつの穴に意図的に指を入れたならば採点。

80. 箱の蓋を開ける

＜座位＞

施行：児がみているあいだに、玩具(今までの検査で一番興味を持った物)を箱の中に入れ、箱に蓋をする。次に蓋を開けて玩具を取り出し、児に玩具を見せる。その後、玩具を箱の中に戻し、再び蓋をする。箱を児の正面のテーブルに置き、
「○○ちゃん、○○はどーこだ？」と言う。
この手順が1トライアルである。

もし児が箱を事故的に倒してしまったならば、テーブルの上に置き直す。

この項目は最大3トライアルまで行う。

記録紙には、各トライアルの所定の場所にチェックマークを入れる。

採点：少なくとも2トライアル(2/3)で児が意図的に蓋を開けることができれば採点。片手でも両手でもよい。玩具を得ることができなくても採点。

シリーズの前項目：72

81. 言語要求に応答する

施行：児が何かを行なうように養育者に口頭で要求してもらう。(まず、何かできることはありますかと訪ねる)養育者には、要求に際して動きや身振りを伴わないように指示する。

初期の一般的な応答としては、「バイバイ」に応じて手を振る、「pat-a-cake」に応じて手を叩く、「鼻を見せて」、「明かりはどこ？」などがある。

もし養育者が身振りを使ってこの項目を無効にした場合、別の要求を使って養育者に再施行してもらう。もし養育者がこの課題を遂行できなかったならば、検査者が施行する。

採点：児が口頭でのいずれかの要求に適切な方法で応じたならば採点。

82. 紐で輪をつるす

＜座位＞

施行：輪を持ち、紐を児の正中線上で児の目の前約20cmで目と同じ高さに垂らす。児の注意を引き付ける為に輪を少し動かし、そして静止させる。次に、輪をテーブル上で児の手が届かないところに置き、しかし紐は児の手が簡単に届く場所に伸ばしておく。児が輪を得ようと、また真似て紐で輪をつるそうとする努力を観察する。

もし児がテーブルに近すぎて輪をつるせない場合は、再びテーブルから離して輪をつるしてみせる。次に養育者に頼み児がテーブル面に触れずに輪をつるせる位置に児を動かしてもらう。

採点：児が輪を手に入れ紐で輪をつるすことができれば採点。

シリーズの前項目：62

運動尺度 [4-8ヶ月(項目 17-60)]

17. 頭を正中位に保つ

＜仰臥位＞

施行：児が検査台の上で仰向けになっており、頭が支えられていないとき、児が頭を正中位に保っているかどうかを観察する。

採点：児が大部分の時間頭を正中位に保っていれば採点。

18. 腕を使い体を起こす

＜腹臥位＞

施行：検査を通じて、児が肘や前腕を使って検査面より体を起こすかどうかを観察する。

採点：もし児が肘や前腕を使って検査面より頭や体幹を押し上げることができれば採点。この動きは、不随緊張性反射としてのランドー反射(児の背部が反張して頭、肩、脚も持ち上がる)とは区別される。

19. 頭のバランスをとる

＜垂直位＞

施行：検査台に垂直に児を抱える(後ろから持つ)。次にゆっくりと前45度に児を傾け、垂直位に戻す。数秒間そのままにし、次に後方、右方、左方についても同様に行う。どの方向に行く前にも一度垂直位に戻して数秒間の間をおく。

採点：児がどの方向でも体に水平に頭を保ったり、勢いで垂直方向に頭を傾けたりして頭のバランスを保つ事ができれば採点。

20. 頭を45度持ち上げ、ゆっくり降ろす

＜腹臥位＞

児を検査台にうつぶせにし、児が頭を45度持ち上げ、2-3秒保ってから、ゆっくりと頭を制御しながら元の位置に戻すかどうかを観察する。

採点：児が頭を45°持ち上げ、2,3秒保ってから、ゆっくりと頭を制御しながら元の位置にもどせば採点。

採点上の注意：項目24(頭を90度持ち上げ、ゆっくり降ろす)もここで採点する。

21. 支えられて座る

＜座位＞

施行：児を検査台の上に座らせ、両脚を軽く曲げ約45度に広げるようにする。被検児の腰のあたりに手を添え支える。被検児の坐位能力に合わせ、徐々に支持を緩める。

採点：児が筋を緊張させ座位を保とうと努力し、支持に全面的に頼らなければ採点。

採点上の注意：以下も同時に採点する

項目22(わずかな支えで10秒間座る)

項目28(しばらくの間、ひとりで座る)

項目34(30秒間ひとりで座る)

22. わずかな支えで10秒間すわる

＜座位＞

施行：児を検査面の上に座らせ、両脚を軽く曲げ約45度に広げるようにする。被検児の腰のあたりに手を添え支える。被検児の坐位能力に合わせ、徐々に支持を緩める。

採点：児がわずかな支えで10秒間すわれば採点。

採点上の注意：以下も同時に採点する。

項目 28 (しばらくの間、ひとりで座る)

項目 34 (30 秒間ひとりで座る)

項目 36 (安定してひとりで座る)

23. 手をだいたい開いている

施行：検査を通じて、児が自由になっているときの児の手を観察する。

採点：児が自由になっている時、大部分の間児が手を開いていれば採点。

24. 頭を 90 度持ち上げ、ゆっくり降ろす

＜腹臥位＞

児が検査台にうつぶせになっている時、児が頭を 90 度持ち上げ、2-3 秒保ってから、ゆっくりと頭を制御しながら元の位置に戻すかどうかを観察する。

採点：児が頭を 90 度持ち上げ、2,3 秒保ってから、ゆっくりと、頭を制御しながら元の位置に戻せば採点。

シリーズの前項目：20

25. 腕から腕へと体重を移動させる

＜腹臥位＞

施行：児が伸展した前腕を使って検査台より頭を持ち上げているとき、児が一方の腕から他方の腕へと体重を移動させるかどうかを観察する。たとえば、児が横に転がろうとする直前や、上方の物を見ようとするときなどに観察する。

採点：児が一方の腕から他方の腕へと体重を移動させることができれば採点。児の前腕は児の体幹の前方に伸びていなければならない。

シリーズの前項目：18

26. 仰向けから横へ向きを変える

＜仰臥位＞

施行：検査を通じて、児が仰臥位から側臥位へと向きを変えるかどうかを観察する。

もし児が自発的に仰臥位から側臥位へと向きを変えなければ、児を自由な状態で仰臥位で検査台の上にねかせ、児のどちらかの側で、児の手が届かないところでベルやガラガラを鳴らす。

そちらの側を児が向くことがなければ、反対側で同様に行う。

採点：児が仰臥位から側臥位へと向きを変えるれば採点。

採点上の注意：項目 38(仰向けからうつぶせに寝返りを打つ)もここで採点する。

シリーズの前項目：11

27. 手首を回転させる

施行：検査を通じて、児が玩具や物を持っている際、児が手首を回転させるかどうかを観察する。

採点：児が玩具や物を持っている際、自由に手首を回転させていれば採点。

28. しばらくの間、ひとりですわる

＜座位＞

施行：児を検査面の上に座らせ、両脚を軽く曲げ約 45 度に広げるようにする。被検児の腰のあたりに手を添え支える。被検児の坐位能力に合わせ、徐々に支持を緩める。

採点：児が 2 秒以上支えなしで座れば採点。

採点上の注意：項目 34(30 秒間ひとりで座る)、項目 36(安定してひとりで座る)もここで採点する。
シリーズの前項目：22

29. 棒をつかむのに手全体をつかう

<座位>

施行：児の手の届く範囲に棒を置き、児がどのようにしてそれをつかむかを観察する。

採点：もし児が棒をつかむのに手全体をつかえば採点。これは指を広げてから閉じるという動作である。親指は上を向いていても下を向いていてもよい。部分的な拇指対立を使っているとしても良いし、どの指かの指先の肉趾を使っているとしても良い。

30. 片方の手でとろうとする

<座位>

施行：検査を通じて、児が玩具や物に手を伸ばす際、児が片方の手を伸ばす傾向にあるかどうかを観察する。

記録紙には、どちらの腕をよく使うかを記録する。

採点：児が玩具や物に手を伸ばす際、両手よりも片方の手を伸ばすことが多ければ採点。使う腕は右左替わっても良い。

31. 積木を掴むために部分的な拇指対立を用いる

<座位>

この項目は心理尺度の項目 45 (積み木をつかみあげる)で採点しても良い。

施行：積み木をテーブルの上で児の真正面で、児の手が届く範囲に置く。

もし児が直ちに積み木をつかまなければ、積み木の近くを叩いて注意を引きつけた後、素早く手を引っ込める。

この項目は、最大で2回行う。

採点：もし児が積み木をつかむために部分的な拇指対立を用いれば採点。親指や他の指を使うのと同時に、掌を使っているとしても良い。掴み方は完全に握り込んでいなくても良い。親指と、他のどの指先を使って持っているとしても採点。

採点上の注意：この項目で項目 37(積み木を取るのに指先を使う)も採点する。

32. 錠剤を手にとろうとする

<座位>

注意：養育者には錠剤が砂糖でできていて被検児が摂取したとしても害がないことを知らせる。

施行：錠剤を児の正面で手の届く検査台の上に置く。児が錠剤に興味を引くように錠剤の近くで軽く机を叩く。錠剤を軽くつついて揺らし、それが動いている間に手をどかす。

採点：児が錠剤を手にとろうと試みたならば、成功しなくても採点。

採点上の注意：項目 41(錠剤をつかむのに手全体を使う)もここで採点する。

33. 座位への引き起こし

<仰臥位>

施行：児の足下に立ち、児の前にかがむ。児の掌に自分の親指を握らせ、その他の自分の指で児手背をつつむ。児を座位まで引き起こし、可能ならば立位まで誘導する。その際、ゆっくりと手を上に持っていく、児が自分で引っ張りあがるのを視るもので、児を引っ張ってはいけない。

採点：児が検者の親指をしっかり握って起きあがれば採点。

採点上の注意：項目 45 (立位への引き起こし)もここで採点する。

34.30 秒間ひとりで座る

＜座位＞

施行：児を検査台の上に座らせ、両脚を軽く曲げ約 4 5 度に広げるようにする。児の腰のあたりに手を添え支える。被検児の坐位能力に合わせ、支えを全く外すまで徐々に支持を緩める。

時間：30 秒間

採点：児が支持なしで、少なくとも 30 秒間自力で座ったならば採点する。

採点上の注意：項目 36 (安定してひとりで座る)も同時に採点する

シリーズの全項目：28

35. おもちゃで遊んでいる間ひとりで座る

＜座位＞

施行：検査を通じて、児が玩具や他の物で遊んでいる間、支えなしで座っているかどうかを観察する。もし児がこの動作をしなかったならば、検査台の上に両脚を軽く曲げ約 4 5 度に広げるように児を座らせ、児に玩具を手渡す。

採点：児がおもちゃで遊んでいる間ひとりで座っていれば採点。

シリーズの前項目：34

36. 安定してひとりですわる

＜座位＞

施行：児を検査面の上に座らせ、両脚を軽く曲げ約 45 度に広げるようにする。被検児の腰のあたりに手を添え支える。被検児の坐位能力に合わせ、徐々に支持を緩める。

採点：児が支えなしで背筋をある程度伸ばして安定してひとりですわれば採点。

シリーズの前項目：35

37. 積み木を取るのに指先を使う

＜座位＞

この項目は心理尺度の項目 45 (積み木をつかみあげる)または項目 53(2 個目の積み木に手をのばす)で採点しても良い。

施行：積み木をテーブルの上で児の真正面で、児の手が届く範囲に置く。

もし児が直ちに積み木をつかまなければ、積み木の近くをたたいて注意を引きつけた後、素早く手を引っ込める。この項目は、最大で 2 回行う。

採点：児が積み木をつかむために親指と、他の指先を使っていれば採点。

シリーズの前項目：31

38. 仰向けからうつぶせに寝返りを打つ

＜仰臥位＞

施行：検査を通じて、児が仰臥位から腹臥位へと向きを変えるかどうかを観察する。

もし児が自発的に仰臥位から腹臥位へと向きを変えなければ、児を自由な状態で仰臥位で検査台の上に寝かせ、児のどちらかの側で、児の手が届かないところでベルやガラガラを鳴らす。そちらの側を児が向くことがなければ、反対側で同様のことを行う。

採点：児が仰臥位から腹臥位へと向きを変えるれば採点。

39. 手で足をつかむ

＜仰臥位＞

施行：児が検査台に仰向けに寝ているとき、児が両手あるいは片手を使って、自分の足をつかむかどうかを観察する。

もし児が自発的に足をつかまなかったならば、児の片方の足にティッシュペーパーをかけて、児の注意をひく。

採点：児が片足、あるいは両足を手でつかめば採点。

40. 初期歩行運動

＜立位＞

施行：児の脇を支えて直立にし、床あるいは検査台の上に足がつくように保持する。

採点：自分の体重を十分に支えられなくても、児が自らを前へと押し進む歩行運動をした場合に採点。

41. 錠剤をつかむのに手全体を使う

＜座位＞

注意：養育者には錠剤が砂糖でできていて被検児が摂取したとしても害がないことを知らせる。

施行：錠剤を児の正面で手の届く検査台の上に置く。児が錠剤に興味を引くように錠剤の近くで軽く机を叩く。錠剤を軽くつついて揺らし、それが動いている間に手をどかす。

この項目は最大で2回行う。

採点：もし児が錠剤をつかむのに手全体をつかえば採点。これは指を広げてから閉じるという動作である。親指は上を向いていても下を向いていてもよい。部分的な拇指対立または、どの指かの指先の肉趾を使っているも良い。

採点上の注意：項目 49 (錠剤をつかむために部分的な拇指対立を用いる)と項目 56(錠剤をつかむために指先を使う)もここで採点する。

シリーズの前項目：32

42. 座位になろうと試みる

＜仰臥位＞

施行：検査を通じて、児が頭と肩を持ち上げて座ろうとするかどうかを観察する。もし児が座位になろうと試みなかったならば、ベルやガラガラを児の前方で届かないところで鳴らすか、児の前に立ち、自分の腕を児に向かって誘うようにさし出す。

採点：もし児が仰向けの姿勢から頭と肩を持ち上げようと試みれば採点。

43. 歩行前の方法（はいはい）で前進する

＜座位＞

施行：児を床に座らせる。児の前方面で、児の手の届かない床上にベルかガラガラを置く。児がベルやガラガラに向かっていく際、座位からはいはいの姿勢になるかや、移動の方法を観察する。

もし児がはいはいの姿勢にならなければ、児をうつぶせにして移動手段を観察する。

採点：児が以下の方法で25cm前後前進すれば採点する：手と膝を使う(高這い)、腹を床につけ腕を使って体をひっぱる(ずり這い)、手と足のうらを使う(四つんばい)、お尻をつかう(いざる)。

44. しばらくの間、体重を支えられる

＜立位＞

施行：児の両手を両腕が肩の高さになるようにのばして持ち、児を床に立たせる。もし児が立っている間、体重を支えられるようであれば、支えなしで立つ能力に応じて手の握りを緩める。児が検査者の手

を支えとしてではなく、バランスを取るために使って、しばらくの間立っているかどうかを観察する。

もし児がしばらくの間立って体重を支えられるようであれば、ゆっくりと手を離して、一人で立てるかどうかを観察する。

万が一、児がバランスを崩した時のために、手を児の近くに保っておく。

採点：児が検査者の手をバランスを取るためにだけに使って、しばらくの間(少なくとも2秒間)、体重を支えられたならば採点。

採点上の注意：項目46(立位にて体重を移動させる)と項目53(歩こうとする)もこの項目の施行で採点しても良い。

シリーズの前項目：40

45. 立位へのつかまり立ち上がり

＜仰臥位＞

施行：児の足下に立ち、児の前にかがむ。児の掌に自分の親指を握らせ、その他の自分の指で児手背をつつむ(図を参照)。児を座位まで引き起こし、可能ならば立位までいく。その際、ゆっくりと手を上に持っていく、児が自分で引っ張りあがるのを見るもので、児を引っ張ってはいけない。

採点：児が検査者の親指をしっかりと握ってつかまり立ちあがれば採点。

シリーズの前項目：33

46. 立位にて体重を移動させる

＜立位＞

施行：児が立っている際、児が片方の脚をもちあげて、また同じところに戻すかどうかを観察する。

採点：児が立っている際、少なくとも片方の脚をもちあげて、また同じところに戻したならば採点する。何かを支えにしているでも良い。

採点上の注意：項目53(歩こうとする)もここで採点してもよい。

シリーズの前項目：44

47. 一人で座位になる

＜仰臥位＞

施行：検査を通じて、児がイスやテーブルの脚や他の都合のいいものを支えにして座位に起きあがろうとするかどうかを観察する。

もし児が自発的に座位になろうとしなかったならば、児を床に置き、ベルやガラガラを児の前方で鳴らし、椅子の端にそれを置く。

採点：児が椅子や他の支えになるのに便利なものを使って座位になれば採点。

シリーズの前項目：42

48. スプーンや積み木を正中位で合わせる

＜座位＞

施行：それぞれの手にスプーンか積み木を一個ずつ持ち、それらを打ち合わせる。次に児にそれを渡し、児にそれを打ち合わせるよう促す。児がそれを正中位まで持ってきて合わせるかどうかを観察する。

採点：児がスプーンや積み木を正中位で合わせる事ができれば採点。

49. 鋏を握むために部分的な拇指対立を用いる

＜座位＞

注意：養育者には錠剤が砂糖でできていて被検児が摂取したとしても害がないことを知らせる。

施行：錠剤を児の正面で手の届く検査台の上に置く。児が錠剤に興味を引くように錠剤の近くで軽く机を叩く。錠剤を軽くつついて揺らし、それが動いている間に手をどかす。

採点：児が錠剤を掴むために部分的な拇指対立を用いれば採点。親指や他の指を使うのと同時に、掌を使っているとも良い。掴み方は完全に握り込んでいなくても良い。親指と、他のどの指先を使って持っているとも採点。

採点上の注意：項目 56(錠剤を掴むために指先を使う)もここで採点する。
シリーズの前項目：32

50. 座っていて体をひねる

<座位>

施行：児が支持なしで座しているとき、注意を引きつけるように児の真正面でベルを鳴らす。次に児の真右で児の体から20cm程度のところにそれを置く。児にそれをとろうとするだけの時間を与える。これが1トライアルである。

児の反応が動であれ、左側で2回目のトライアルを行う。

もし児がベルに興味を失ったならば、もう一度その場でベルを鳴らす。

もし児がベルに向かってはってきそうになったならば、児のくるぶしを軽く押さえ、児がはわないようにする。

児が正しく反応したならば、記録紙の各トライアルの欄に印を入れる。

採点：少なくとも1トライアルで、児が体をひねってベルに手を伸ばしたならば、児が片方の腕で体を支えていたとしても採点。もし児が座位を崩したならば(はいはいや前に倒れるなど)採点してはならない。

シリーズの前項目：36

51. 座位からはいはいの姿勢になる

<座位>

施行：検査を通じて、児が座位からはいはいの姿勢になるかどうかを観察する。

もし児が自発的に座位からはいはいの姿勢にならなければ、児を支持なしで座らせ、注意を引きつけるように児の真正面でベルを鳴らし、児の前方 30-40 cm 程度のところに置く。

もし児が興味なさげにしていたならば、もう一度ベルを鳴らす。

採点：児がベルを得ようとして、座位からはいはいの姿勢になれば(手と膝で)採点。実際にはうことや、ベルを得る必要はない。

シリーズの前項目：50

52. ひとりで立位になる(つかまり立ち)

<仰臥位>

施行：検査を通じて、児が仰臥位の姿勢から、いすやテーブルの脚や他の支えになるのに便利なものを使えにを使って立位になるかどうかを観察する。

もし児が自発的に立位になろうとしなかったならば、児を床に置き、ベルやガラガラを児の前方で鳴らし、椅子の端にそれを置く。

採点：児が椅子や他の支えになるのに便利なものを使って立位になれば採点。

シリーズの前項目：47

53. 歩こうとする

＜立位＞

施行：児と検者が向かい合って、児の両手を両腕が肩の高さになるように伸ばして持ち、児を床に立たせる。もし児が協調したステップを踏めば、児が支えなしで歩く能力に応じて手の握りを緩める。

採点：児が交互に、協調した歩みをみせれば採点。支えのために、検者の両手、あるいは片手を握っていても良い。

採点上の注意：項目 60 (支えられて歩く) もここで採点する。

シリーズの前項目：46

54. 家具を使ってよこに伝い歩きをする

＜立位＞

施行：児が立っている時に横伝い歩きをするかどうかを観察する。家具を使って支え歩きをしていても良い。

もし児が易々と捕まり立ちをしているにも関わらず、歩かないならば、捕まって歩けるだけの持ち場所があるかどうかを確認する。次に、児のぎりぎり届かないところの家具の上に玩具を置き、児が歩いてそれを取りに行くように促す。

採点：もし児が家具を使ってバランスと支えを取りながらよこに伝い歩きをすれば採点。児は片方の脚を持ち上げて動かし、次にもう片方の脚を持ち上げて最初の脚の横につける動きをみせる。児が一人で歩いていても採点。

シリーズの前項目：53

55. 座位になる

＜立位＞

施行：児が立っている間に(支えありでもなしでも)、児がどのようにして腰をかがめて座位になるかを観察する。

採点：児が故意に立位から上手に腰をかがめて座位になれば採点。座位になるのにただどたりと腰を落としたり落ちたりしたものは採点しない。

56. 錠剤を掴むために指先を使う

＜座位＞

注意：養育者には錠剤が砂糖でできていて被検児が摂取したとしても害がないことを知らせる。

施行：錠剤を児の正面で手の届く検査台の上に置く。児が錠剤に興味を引くように錠剤の近くで軽く机を叩く。錠剤を軽くつついて揺らし、それが動いている間に手をどかす。

採点：児が親指と他の指の肉趾を使って錠剤をつかんだならば採点する。

シリーズの前項目：49

57. 棒をつかむのに部分的な拇指対立を用いる

＜座位＞

施行：児の手の届く範囲に棒を置き、児がどのようにしてそれをつかむかを観察する。

採点：もし児が棒をつかむのに部分的な拇指対立を用いれば採点。親指や他の指を使うのと同時に、掌を使っていても良い。掴み方は完全に握り込んでいなくても良い。親指と、他のどの指先を使って持っていて採点。

シリーズの前項目：29

58. 鉛筆を持ち手のところで持つ(クーピー)

<座位>

施行：児の前のテーブルの上に紙を置く。次に、先端を児の反対の方向に向けて鉛筆を紙の中央に置き、「絵を描いてみてごらん」と呼びかける。

児に描かせるために1、2分を与える。

もし児が鉛筆を持たなかった場合、

「ほら、どうぞ何かを描いてごらん。なんでもいいのよ」と声をかける。

採点：児が鉛筆の先端 1/3 から遠い方を握ったならば採点。もっと先端に近いところを握っていてもよい。

59. 立ち上がるⅠ(腹臥位になってから)

<座位>

施行：おどけたような様子で児を支えにできるような物体から遠ざけて仰向けに置く。そして楽しげに、「ほら、立ってごらん！はやくはやく！」と言う。

採点：児がまず腹臥位に転がり、何の支えもなく立ち上がれば採点。もし児が立つ前に側臥位になったり、しっかりした座位になっても採点。

採点上の注意：項目 68 (立ち上がるⅡ、腹臥位にならずに立ち上がる)もここで採点する。

シリーズの前項目：52

60. 支えられて歩く

施行：検査を通じて、児が検査者や家具を支えにして歩くかどうかを観察する。

もし児が歩こうとしなければ、児の片方の手を持って児を支え、床に立たせる。

採点：児がわずかな支え(検査者の片手や、片手で家具を持つなど)で協調した歩行運動をみせて歩けば採点。もし児が一人で歩けばこれも採点。

シリーズの前項目：54

(参考資料3) Bayley Scale for Infant Development 採点表

領域		姿勢	項目	4ヶ月	5ヶ月
姓名 性 養育者の名前 検査者 検査日 生年月日 概算差し引き 修正 生活年齢	心理尺度	仰臥	ガラガラ 棒 ボール 輪	33. 検査者がほほえむと声をだす 35. ガラガラで遊ぶ 36. 棒を追視する 46. ボールが見えなくなった方を2秒間注視 37. 輪を手で扱う (40) 38. 吊された輪を取ろうとする(39) 39. 吊された輪をつかむ 40. 輪を口に持っていく	
		座位	輪 鏡 積み木	48. 紐で遊ぶ(62) 41. 鏡の像に近づく(49,50) 49. 鏡の像にほほえみかける 50. 鏡の像にたわむれた反応をする 42. 積み木を取ろうとする(44,45,53,57,58,65) 44. 物をつかもうとするときに目・手協調運動 45. 積み木をつかみ上げる(M31)	62. 紐を引っ張って輪を手に入れる(82) 53.2 個目の積み木を取ろうとする(57,58,65) 57. 積み木を器用に直接つかむ(M31,M32) 58.3 秒間2個の積み木を持っていられる
	観察		玩具 ボール ベル・ガラガラ ベル	43. 頑張っ取ろうとする 32. テーブルを転がるボールを追視する 30. 音源に頭を向ける	59. 細かい部分に興味をもってベルを扱う(66) 66. 意図的にベルを鳴らす
			錠剤 玩具など カップと玩具 スプーンと鏡 クレヨンと紙 認知・言語 絵本 箱 車 ベグボード	51. 錠剤を注視する(M41,32) 52. ぶつけて音を立てて遊ぶ	55. 逆さのカップを持ち上げる(67) 56. 落ちたスプーンを探す 60. 殴り書きしようと試みる 63. 発声をまねる * どんな語? 64. ゲームに参加する * (いないいないばあ・パチパチ等)
	運動尺度	垂直 仰臥	ベル・ガラガラ	31. 感情を声に出す(喜・不快・希望・満足) 34. 自分の手をじっと見つめる 47. 新しい環境を察知する	54. 手から手へと物を持ちかえる 61. 3つの母音を発声する (記録)
		腹臥		19. 頭のバランスをとる 26. 仰向けから横へ向きを変える(38) 33. 座位への引き起こし(45)	38. 仰向けからうつぶせに寝返りを打つ 39. 手で足をつかむ
	観察	座位		20. 頭を45°持ち上げ、ゆっくり降ろす(24) 24. 頭を90°持ち上げ、ゆっくり降ろす 25. 腕から腕へと体重を移動させる 21. 支えられて座る(22,28,34) 22. わずかな支えで10秒間座る(28,34,36) 28. しばらくの間、ひとりで座る(34,36) 34.30 秒間ひとりで座る(36) 35. おもちゃで遊んでいる間ひとりで座る 29. 棒をつかむのに手全体をつかう(掴み方)	36. 安定してひとりで座る 37. 積み木を取るのに指先を使う 41. 錠剤をつかむのに手全体を使う(49,56)
			玩具 棒 積み木 錠剤 スプーンと積み木 鉛筆と紙	31. 積み木を掴むために部分的な拇指対立を用いる(37) 32. 錠剤を手にとろうとする(41)	
	観察	立位			40. 初期歩行運動
		仰臥 腹臥	玩具など 玩具など	17. 頭を正中位に保つ 18. 腕を使い体を起こす 23. 手をだいたい開いている 27. 手首を回転させる 30. 片方の手で取ろうとする(右・左・両手)	27. 手首を回転させる
		座位 立位			